

「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰」

悪の世に打ち勝つ信仰

今日の第二朗読は、ヨハネの手紙一からとられていますが、そもそもこの手紙は、三通に分かれており、書かれた時期も微妙に異なるようです。

いずれにしても、一世記末前後に、ヨハネ共同体の指導的位置にあった一長老によって書かれたと考えられます。しかも、この共同体において信仰理解において分裂が起こり、結果的に脱落者が共同体を離れてしまったという状況がありました。

ですから、内容としては、真の信仰を土台に共同体を再建するための勧告にほかなりません。

そこで、まず、キリスト者が誰であるかを、単刀直入に説明します。

「愛する皆さん、イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。そして、生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。」

まさに、わたしたちの信仰によって、神の子となったという原点が示されています。ですから、信仰箇条を信じる以上に、神から生まれた者になったと言う信仰の素晴らしい恵みを確認できるのではないのでしょうか。

つづいて、ヨハネは愛について強調します。

「生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。」

神に対する愛と、互いに愛し合うということは、決して切り離すことができないのであります。実は、今日の個所の前の4章に、次のような大切な説明があります。

「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。」（ヨハネー 4. 7-8）

ですから、キリスト者こそ愛に生きる神の子にほかなりません。

しかも、わたしたちの信仰は、本来的に世に対立する生き方なのであります。ヨハネは、極めて大胆な表現で、次のように主張しています。

「神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。」

ここで言われている「世に打ち勝つ」ですが、ヨハネ文書の文脈から『世』は、悪魔の支配・罪と死の支配に浸^ひた^たされているので、キリストの十字架と復活によってしか、世に打ち勝つことができないという意味です。実は、この手紙の2章で世について極めて明解な説明が、次のようになされております。

「世も世にあるものも、愛してはいけません。世を愛する人がいれば、御父への愛はその人の内にありません。なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。」（同上 2. 15-17）

したがって、イエスの十字架上での贖いの御業を信じることによって、これら世の悪と闘いそれに打ち勝つことができるようになったのです。

ですから、教会の歴史を振り返るとき、この世の悪に妥協してしまったことも度々あったことを謙虚に反省すべきではないでしょうか。

たとえば、初代教会がローマ帝国において体験した激^{はげ}しい迫害が終わり、国の公認の宗教と認められ、様々な援助を受け、また特権を与えられ、まさに国家権力に結びついたとき、教会はまさに世俗化してしまったと言えるのではないのでしょうか。

実は、イエスご自身も、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受け、霊に満たされた直後、荒れ野で悪魔の誘惑にふりまわされました。そのなかで、この世の権力に頭を下げるかどうかの際どい誘惑に遭遇します。

「更に、悪魔は、イエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。そして悪魔は言った。『この国々の一切の権力と繁栄を与えよう。それは、わたしに任されていて、これと思う人に与えることが出来るからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。』」イエスはお答えになった。『＜あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ＞と書いてある。』」（ルカ 4. 5-8）

それこそ、中世のヨーロッパの教会は、土地の権力者が司教職をお金で買い取ることも許してしまったのであります。

実は、イエスは、すでに、次のように厳しく戒められたのではないですか。

「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」（マタイ 6.24）

あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者

ところで、今日の福音はイエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けられた場面を伝えておりますが、その締めくくりとして天の御父の次のような宣言があります。

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」

わたしたちも、信仰によって神から生まれ、神の子になりました。ですから、この父なる神の宣言は、そのままわたしたちのも当てはまるのではないのでしょうか。しかも、パウロが強調しているように、わたしたちは、洗礼によってキリストに結ばれ、復活のいのちを生きる者になったのです。

「洗礼を受けてキリスト・イエスと一致したわたしたちはみな、キリストの死にあずかる洗礼を受けたものではありませんか。わたしたちはその死にあずかるために、洗礼によってキリストとともに葬られたのです。それはキリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちもまた、新しいいのちに歩むためです。」（ローマ 6.3-4）

ですから、洗礼式でわたしたちは、次のように誓いました。

「司：あなたは悪霊をすてますか。答：捨てます。

司：その すべてのわざを捨てますか。答：捨てます。

司：その すべての虚栄を捨てますか。答：捨てます。」

この新しい年の初めに当たって、今年一年、世に打ち勝つ信仰を、一人ひとりが、そして共同体ぐるみで貫くことができるように、共に祈りたいと思います。